

神奈川県衛生研究所 学術講演会

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の 細菌学的特徴と流行の変遷

日時 令和7年8月8日（金）14:30～16:30

会場 神奈川県衛生研究所 6階 大会議室
(神奈川県茅ヶ崎市下町屋1-3-1)

講師 国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所
細菌第一部 第三室 池辺 忠義 先生

講演概要

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は、1980年代に欧米で報告され、日本では1993年に症例が報告された再興感染症で、致死率は約30%と高い。2024年の国内患者数は1,800人を超え、約500人が死亡しており社会問題となっている。原因菌のA群レンサ球菌は咽頭炎や扁桃炎など局所感染を引き起こす一般的な病原体だが、劇症型は全身感染で急速に進行し散発的に発生する。

溶血性レンサ球菌レファレンスセンターでは、患者分離株の収集と調査を継続し、A群レンサ球菌の主要病原因子をコードする *emm* 遺伝子型を同定することで、流行を調査している。

本講演では、A群レンサ球菌における *emm* 型の推移から見てきたこと、劇症型溶血性レンサ球菌感染症を引き起こしたA群レンサ球菌と咽頭炎を引き起こしたA群レンサ球菌の違いについて菌側の違いについて紹介するとともに、今般、2010年代に英国で流行した流行性が高いとされるA群レンサ球菌M1UK系統株の集積が、2023年夏以降に日本国内でも確認されていることから、日本におけるこの系統株の流行について紹介する。また、COVID-19流行下においてみられた劇症型溶血性レンサ球菌感染症の流行の変化についても紹介する。



*** 申込不要・参加自由です ***

アクセス

JR茅ヶ崎駅 北口バスターミナル
のりば3 神奈川中央交通バス

- ① 平塚駅北口行：今宿下車5分
- ② 浜見平団地行：町屋下車8分



問合せ：神奈川県衛生研究所 企画情報部 衛生情報課 TEL 0467-83-4400 (代表)